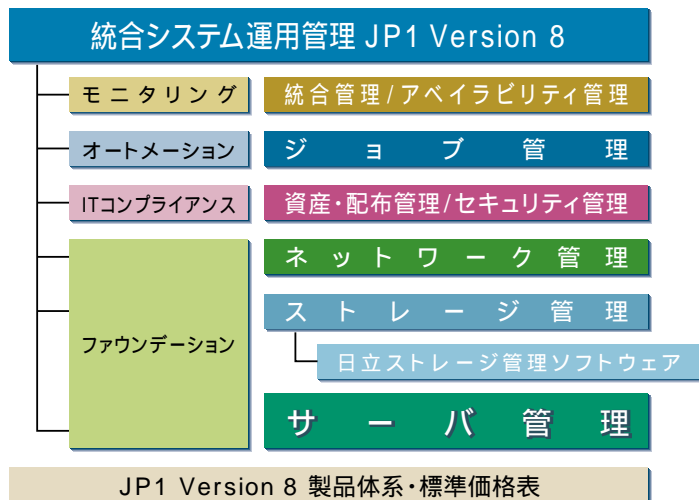



JP1 Version 8のカタログ一覧

詳細は各製品のカタログをご参照ください。



・Microsoftは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
 ・記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。



JP1は、日立グループの「環境情報表示制度」に基づき環境配慮を評価し、スーパー環境適合製品として登録した製品です。本製品をご利用いただくことで、導入前に比べCO2を約50%削減できます(弊社モデルケースの場合)。詳しい環境情報は、当社のホームページで、ご覧いただけます。
<http://greenweb.hitachi.co.jp/>

画面表示をはじめ、製品仕様は、改良のため変更することがあります。
 本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法並びに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認のうえ、必要な手続きをお取りください。
 なお、ご不明な場合は、弊社営業担当員にお問い合わせください。

製品に関する詳細・お問い合わせは下記へ

製品情報サイト
<http://www.hitachi.co.jp/jp1/>
 インターネットでのお問い合わせは
<http://www.hitachi.co.jp/soft/ask/>

電話でのお問い合わせはHMCC(日立オープンミドルウェア 問い合わせセンター)へ
 ☎ 0120-55-0504 利用時間 9:00~12:00, 13:00~17:00(土・日・祝日・弊社休日を除く)

◎株式会社 日立製作所 情報・通信グループ ソフトウェア事業部

CA-556Q 2008.4
 Printed in Japan(H)

統合システム運用管理 JP1 Version 8

サーバ管理

Foundation V8.5

HITACHI
 Inspire the Next

JP1 Version 8

uVALUE with Harmonious Computing

本カタログはAdobe社Acrobatにより制作したPDFカタログです。
 All Rights Reserved, Copyright © 2008, Hitachi, Ltd.

JP1 Version 8 Foundation

サーバ管理

運用ノウハウを結集し、サーバ統合の価値を最大化する。

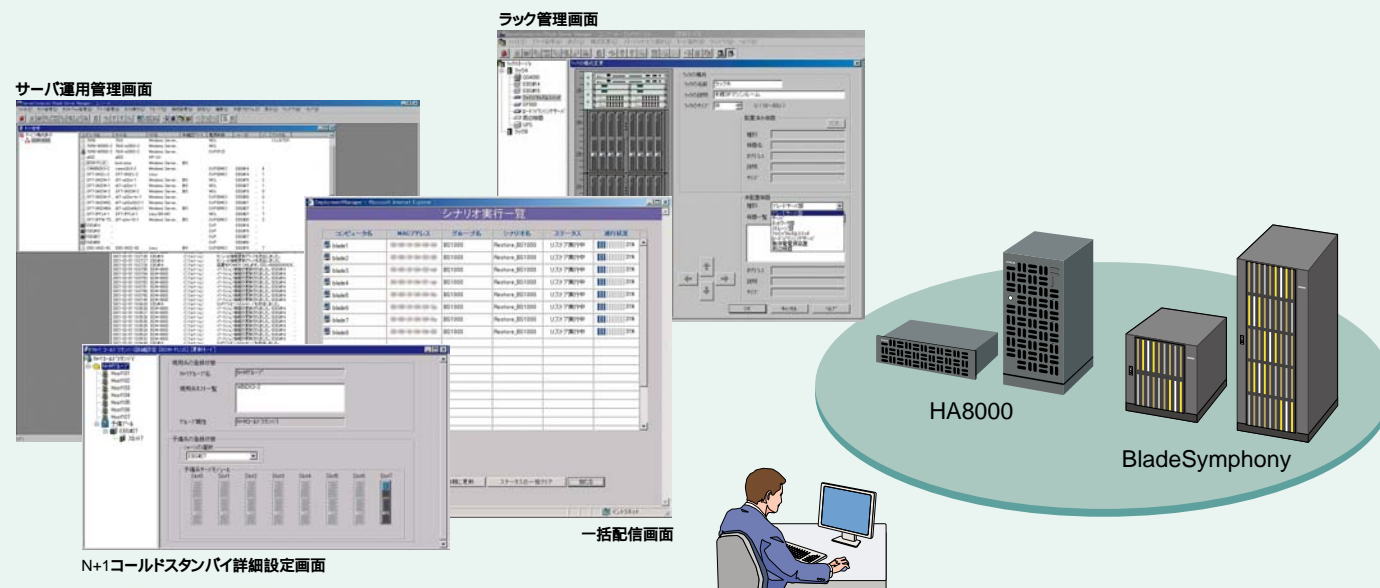
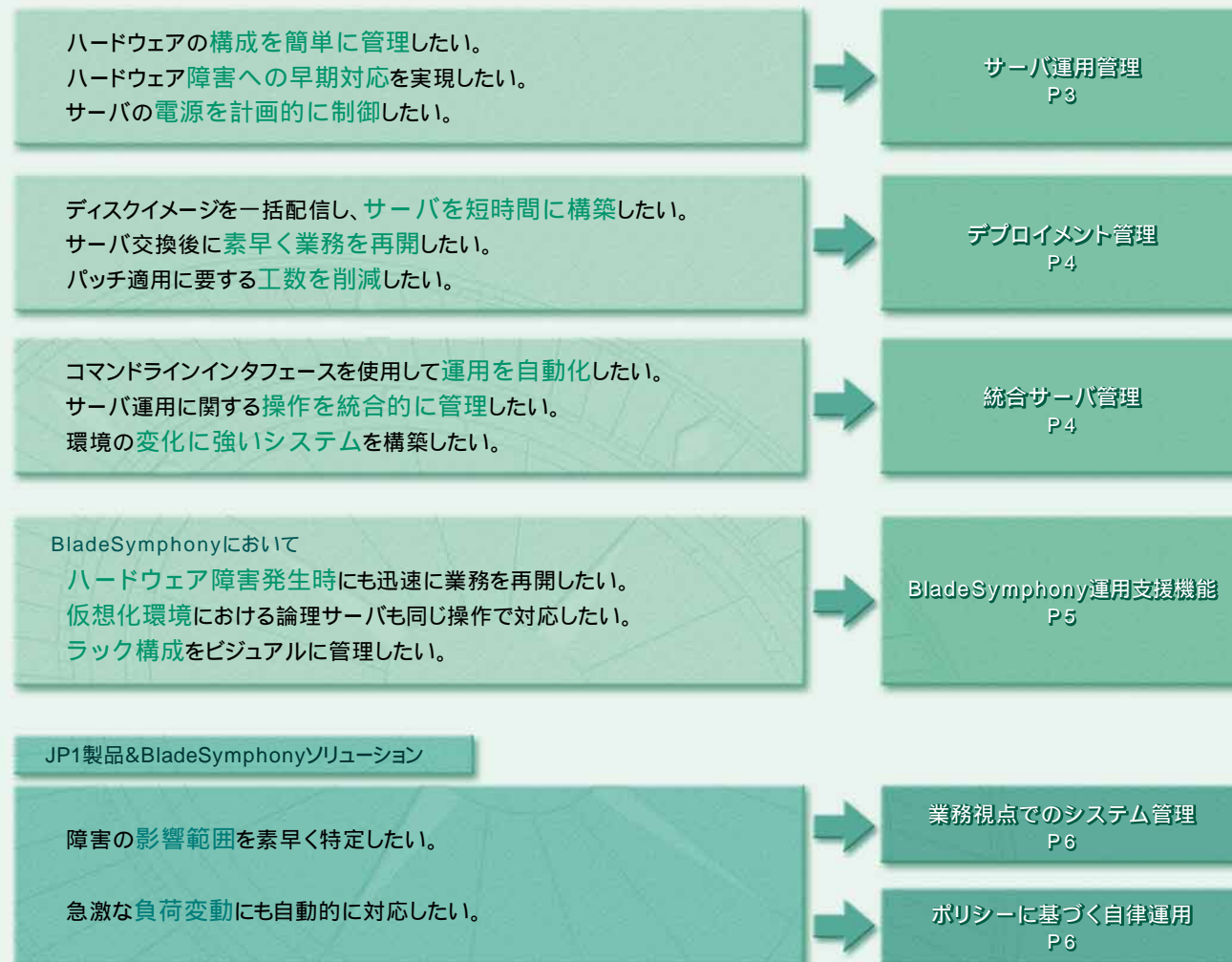
企業情報システムの高度化・複雑化に伴い、サーバ台数が増加し、膨れ上がる管理コスト。運用の効率化やコスト削減のために、「サーバ統合」は1つのスタンダードな解となっています。しかし、サーバを物理的に統合するだけでは、その効果は十分に得られません。必要となるのは、サーバを知り抜いた上での運用ノウハウ。JP1ファウンダーションの[サーバ管理]は、長年のメインフレーム、サーバ開発で培ってきた日頃のノウハウを結集し、サーバ統合の最適化に不可欠な機能を提供。ROI向上、既存システムとの融合、変化への即応を実現する真のサーバ統合へすべては、お客さまの継続的な発展のために。

ROI: Return On Investment

システム基盤を支えるそれが、JP1の「ファウンダーション」。「ファウンダーション」を構成する「サーバ管理」は、統合サービスプラットフォーム「BladeSymphony」などのハードウェア能力を最大限に引き出し、その特性を活かした運用管理・制御を実現する製品群です。



手間やコストを圧縮する「サーバ統合」を豊富な機能で支援します。



Service Quality Management

サーバ運用の効率化に不可欠な機能を提供する

サーバ運用に不可欠な「資産管理」「障害管理」「電源制御」という3つの観点から、さまざまな操作を一括実行できる環境を提供し、サーバ運用の効率化を実現します。

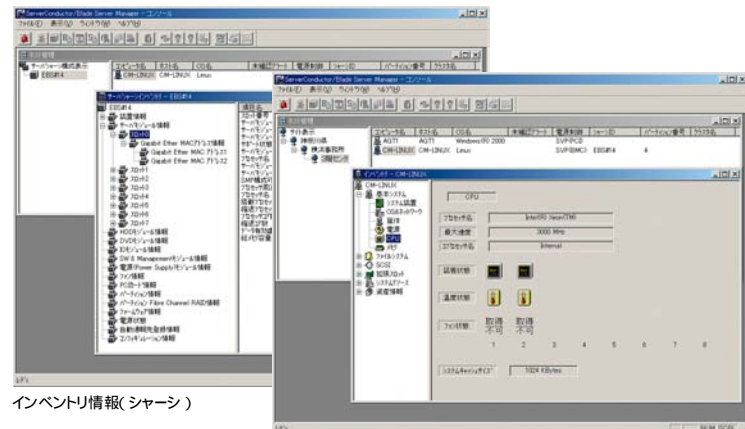
サーバ運用管理

「JP1/ServerConductor/Server Manager」
「JP1/ServerConductor/Blade Server Manager」

ハードウェアの構成を簡単に管理したい。

資産管理

システム装置情報、OSバージョン、ハードウェア構成情報、設置場所などのインベントリ情報をGUIで検索・参照できます。あらかじめ指定した条件で定期的に検索し、検索結果をメールで自動送信することも可能。これにより、ハードウェアの構成管理が容易になります。



インベントリ情報(シャーン)

インベントリ情報(CPU)

- <インベントリ情報の取得例*>
- ・筐体情報(温度、ファン状態、電源状態)
 - ・CPU情報(プロセッサ数、プロセッサ名、最大速度、温度)
 - ・メモリー情報(メモリスロット数、メモリーサイズ)
 - ・物理ドライブ情報/論理ドライブ情報
 - ・OS情報(種類、バージョン、サービスパック)
 - ・ネットワーク情報(ドメイン名、コンピュータ名、ホスト名)
 - ・資産情報(資産番号、管理者名、連絡先)
- *取得できるインベントリ情報は、管理対象の種類やモデルによって異なります。

<ServerConductor/Agent ホストレポート 77777777777777777777>

レポート条件
1. 報告 CPU最大速度(%) > *
2. 報告 OS名 * Windows Server (TM) 2003
検索数の表示形式
1 and 2

コンピュータ名	発見時刻	報告 CPU最大速度(%)	報告 OS名
HAAS_1	2007/03/28 16:30:00	733	Windows Server (TM) 2003
HAAS_2	2007/03/28 16:30:00	400	Windows Server (TM) 2003

数値された添付ファイルのサイズを超えるため、これ以降の情報は省略されます。

検索結果の表示例

ハードウェア障害への早期対応を実現したい。

障害管理

ハードウェア障害を検知し、アラート表示やログ*1でその旨を自動通報します。障害の重要度に応じて通報要否を決定できるため、重要な障害に絞って通報することもできます。また、アラートは「統合コンソール:JP1/Integrated Management」にも表示できます。障害発生を契機として、指定したプログラムの自動実行やSNMPTラップ通知も可能です。

*1 アラートログ(サーバのアラート)やSVPログ(各SVPとシャーンのアラート)など
SVP:Service Processor

<アラートやログで表示できる情報の例*2>

- ・発生日時
- ・発生ホスト
- ・アラートレベル
- ・内容
- ・アラートID
- ・発生部位

*2 表示できる情報はアラートやログの種類によって異なります。



障害内容を確認

統合コンソールへのアラート表示

サーバの電源を計画的に制御したい。

電源制御

サーバの電源ON、強制電源OFF、リポート、シャットダウンなどをGUIで設定し、実行できます。また、電源スケジュール機能によりサーバの定期メンテナンス時などあらかじめ設定しておいた曜日や時間に電源を制御することも可能です。



電源制御スケジュール画面

サーバ構築/運用/保守作業の負担を大幅に軽減する

デプロイメント管理

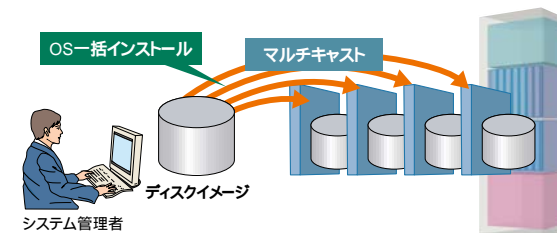
「JP1/ServerConductor/Deployment Manager」

OS一括インストールやシステムディスクの遠隔バックアップなどにより、サーバ構築/運用/保守作業を大幅に省力化。サーバ台数に比例して増大する負担や人為的ミスを軽減します。

ディスクイメージを一括配信し、サーバを短時間に構築したい。

OS一括インストール

セットアップ済みのサーバのシステムディスクイメージを複数サーバに一括配信し、OSを自動セットアップ。サーバ構築の工数を大幅に削減できます。

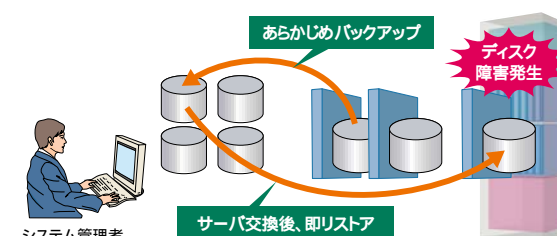


システム管理者

サーバ交換後に素早く業務を再開したい。

システムディスクの遠隔バックアップ/リストア

システムディスクのバックアップ/リストアを遠隔操作で実現できます。この機能を利用すれば、万一障害が発生してサーバを交換した場合にも、バックアップイメージを対象サーバにリストアし、素早く業務を再開できます。

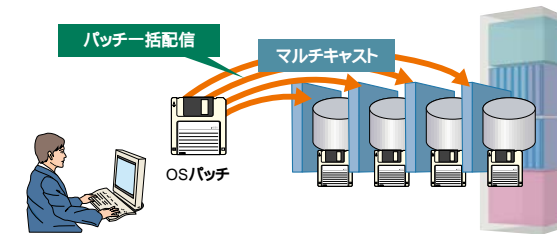


システム管理者

パッチ適用に要する工数を削減したい。

パッチ一括配信

OSパッチ、サービスパックをサーバに一括配信してアップデートを実行。パッチ対策工数を大幅に削減し、セキュリティレベルを保ちます。



システム管理者

さらに高度な運用に向けた統合管理を実現する

統合サーバ管理

「JP1/ServerConductor/Control Manager」

「サーバ運用管理」「デプロイメント管理」で管理する情報を、さらに集約して一元管理。JP1[統合管理 I ジョブ管理]と連携するための基盤部品を提供し、より高度なシステム運用を実現します。

コマンドラインインターフェースを使用して運用を自動化したい。

コマンドラインインターフェースの提供

管理対象サーバはコマンドラインインターフェースでも操作可能。これにより、運用の自動化を支援します。

サーバ運用に関する操作を統合的に管理したい。

統合管理画面の提供

サーバ運用管理とデプロイメント管理の提供する機能を、1つのコンソールから効率良く操作できます。



統合管理画面

環境の変化に強いシステムを構築したい。

JP1[統合管理 I ジョブ管理]との連携

[システム情報管理オプション:JP1/Integrated Management - Central Information Master]と連携するためのリソース情報を取得し、物理リソース構成を論理システム構成にマッピングできます。さらに、[シナリオ管理基盤:JP1/Automatic Job Management System 2 - Scenario Operation]と連携することで、「シナリオテンプレート」を利用でき、サーバの構成変更を自律運用できるようになります。

BladeSymphonyの強みを活かした運用を実現する BladeSymphony運用支援機能

「JP1/ServerConductor/Blade Server Manager Plus」

BladeSymphonyの強みを活かした運用を実現。障害発生時や構成変更時の適切な対処をサポートし、運用効率を大幅に向上させます。

ハードウェア障害発生時にも迅速に業務を再開したい。

N+1コールドスタンバイ機能

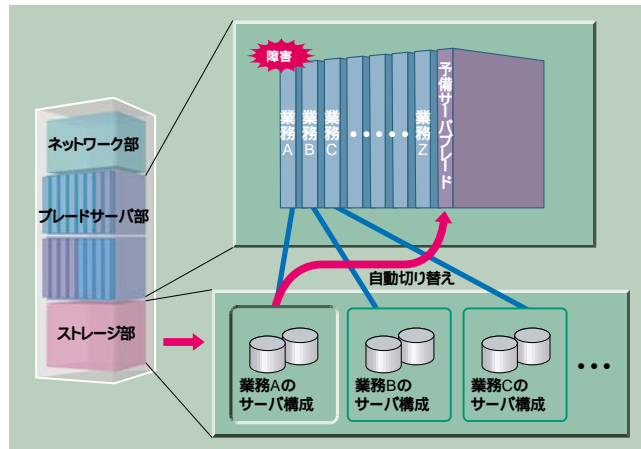
SANブート環境*において、サーバブレード障害が発生した場合に、障害サーバブレードを切り離し、予備サーバブレードに切り替える機能です。障害の検知からサーバブレードの切り替えまでを自動化できます。これにより、サーバブレード交換などの復旧作業を待たずに、業務を迅速に再開でき、システムの可用性を高めることができます。

SAN:Storage Area Network

*サーバ筐体内部のハードディスクではなく、ストレージ部にOSや業務に必要なソフトウェアなどを格納し、そこから業務システムを起動させる方式。

・複数サーバブレードで予備サーバブレードを共有可能
例えば、業務A～Zのどのサーバブレードで障害が起きた場合でも、予備サーバブレードが代替を務めます。それぞれが専用の待機サーバを持つ場合に比べて、ハードウェア機器やソフトウェアライセンスに要するコストを抑えられます。

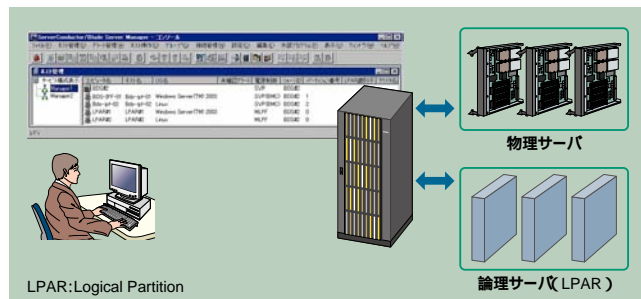
・多重障害に耐えられるシステムも構築可能
予備サーバブレードを複数台設定することも可能です。多重障害発生時であっても、サーバブレードの自動切り替えを実現できます。



仮想化環境における論理サーバも同じ操作で対応したい。

サーバ仮想化機構Virtage(パタージュ)に対応

論理サーバ上で、障害監視(アラート通知)、インベントリ管理、OS起動/停止の遠隔操作などのサーバ運用管理、およびOSの一括インストールやパッチの一括配信などのデプロイメント管理を、物理サーバと同じように一元管理できます。また、N+1コールドスタンバイにも対応しており、サーバブレードで障害が発生した場合、仮想化環境をそのまま予備サーバブレードに引き継ぎ、論理サーバを起動できます。



ラック構成をビジュアルに管理したい。

ラック管理

BladeSymphonyのラック構成を画面にビジュアルに表示。ラックの構成がひと目で把握できるようになります。また、ハードウェア障害発生時には障害部位が赤色で表示され、迅速に障害箇所を特定できます。



障害の影響範囲を素早く特定したい。

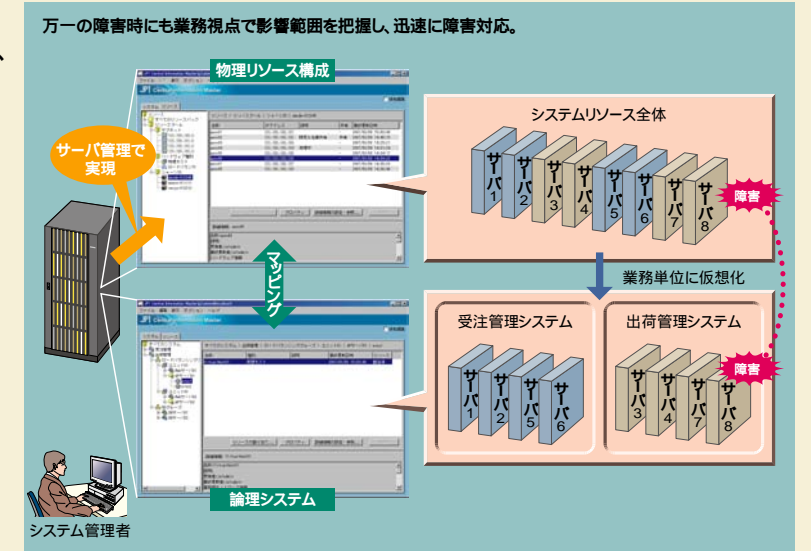
業務システムは一般に複数サーバにまたがって稼働し、業務ごとの管理がなされていない場合がほとんどです。このため、障害発生時には影響範囲の把握に時間がかかり、迅速かつ適切な対処を施すことが困難でした。こうした事態を解決するのが、JP1&BladeSymphonyの「業務視点でのシステム管理」です。

業務視点でのシステム管理

各種システムリソースという物理的な情報を、業務という論理的な情報にマッピングする手法です。システムリソースを業務単位の区分けで管理できるように仮想化します。

システム管理者は「サーバ1」「サーバ2」といったハードウェアを意識することなく、「受注管理システム」「出荷管理システム」といった業務視点でのシステム管理ができますようになります。

これにより、障害発生時にハードウェアの障害の影響範囲がどの業務に及んでいるのかを瞬時に把握。迅速な障害対応が可能になります。



急激な負荷変動にも自動的に対応したい。

急激な負荷増大に耐えられず、もしもシステムがダウンしてしまったら、貴重なビジネスチャンスを逃すことになりかねません。Webフロントエンドからバックエンドの基幹DBサーバまで、Web3階層全域を包括可能なJP1&BladeSymphonyであれば、どの部分でボトルネックが生じても迅速かつ的確な自動対応を行なえます。

ポリシーに基づく自律運用

ポリシーに基づく自律運用により、サーバの追加(スケールアウト)など、必要な操作を自動実行させる手法です。あらかじめ運用ポリシーを設定しておくことで、万一の場合の対応を自動化。システム管理者の負担を大幅に軽減します。

Web3階層のどこにボトルネックが生じた場合でも対処可能なのは、システム全体を統合的に監視できるJP1ならではの。

さらに、「夜間、オンライン系リソースが余り気味となったら、これをバッチ系に充てる」といった運用切り替えも自動化でき、高度なシステム運用を支援します。

急激な負荷変動にも自律的にシステム構成を変更し安定稼働を実現。性能ボトルネックがどこで発生しても対処可能。ポリシーに基づく自律運用を、シナリオテンプレートの活用により容易に構築可能。

